



寫聲帖

019



班女園中秋

願多楚王臺

上求琴拜

みづはらふ

ふくむはらふ

あつはらふ

なほはらふ

望山幽月程

夜新醜細苑

泉精倍勢

とくちやまゝの

燈へ乃花をさし

かのいりみぢ

あさこれ夕をさし

鐘乃ととも花の

けりなりなり

ふなり

をらうとやま

美濃の巻

切能

千代

いづれ

山崎

新

けり

あ

詠松契春

松

春のあそび

あそびのあそび

詠

あそびのあそび

詠松契春

和歌

業廣

十^一の世^二を^三あ^四ら^五わ

ち^一に^二る^三道^四に^五松^六の^七心

る^一の^二花^三乃^四け^五ふ^六き

兜^一新^二耳^三

幽人生計群

山雪遠客素

由一樹春

志うをきりかた

人のこころひを

いつるまよわたりふ

かた

勢らす

西の海

水先こころ梅

たふさるる

うと紀毛人

おろり

うと

懷忠偏得意至

孝自成 人換白

何種死 舍丹在

顯親 王生 猶有

母曾子 豈北居

表白公 庭翰應

知西取身

ひし月日此替くを

えかきくわらこ

三月の

ひし

わし

ふ

ひのふ

白濁

山崎 徳右衛門

うり及けぬ

か

今更なる

いふは

ふとふ

を

山崎 徳右衛門

仁徳天皇

法華

山見
東
乃
乃
乃
乃
乃

乃
乃
乃
乃
乃
乃
乃

長之いふ字は

長之いふ字は

長之いふ字は

長之いふ字は

長之いふ字は

長之いふ字は

長之いふ字は

花波根の

春はつらき

うみとくま

く

うららかにうら

きはゆき

あはれやうら

あはれやうら

一聲山鳥曙
雲外萬點水
螢秋草中

中
心
也
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之

氣奔風梳新
柳綠水消波
洗舊若曠

柿平人磨

保能々々
浦若河走
不久禮約
布祿遠新

楚思婦

此貫之

さくさくちる木ねし多

か場ハはせをよそへ

をふふく礼想

ゆふ花ゆりなる

尾河内船垣

伊津色物

海
人

燈の

まの光

やまは 王女ふ

雷

布衣

色

う

平道威

書松を

ある

林乃ある

松

今を

何里

地を

ある

かまの

中納言家持

その

あつを

ほつ

あむ

妻乃野

に

人、何れ

志

は

あむ

伊勢

今更の山

伊ふ結みせ

心ゆき

まのやうな

い〜と

三條院女院人

伊橋

ふ乃契

志を

のき

林

友原之真

みらせ 友をいへ

友人を 友をいへ

むしふ ありか

けしり ありか
ふ 友

藤原清心

わき門勢

畑を井の浦よ

のれを津志

たねの雪のふ

かみしる人
友

源信明朝臣

心志

ら

心志

と

河をく東流

人より 活起也花

女

事

心

藤原興風

道り 比賣里あき

心

を心

心志

河をく

あき

あき

心

心

心

源順

水結面尔傳流月

まゝ残かうあしを

たゝ花楚梅果

とたうふ里汁心

所宮女津

岩志 琴乃

杉邊 移り

あゝ魚 かゝる志

うん いはさる

あま 徳ら

源忠朝下

中二面くそやん此

常一つあそ

二書

伊波むせこ書

死まほへ

素性法師

見まう皆ハ

柳さう法 万重

ふかの 万重法 万重

ふか 万重法

傳心遍照

そと心口ハあはれえ

志をむとむかひ

うらうらかこころあは

かやありあは

故と是則

見よ一聖乃ふれあ

ゆたはれぬ新

あはれはあはれ

かきとあはれふ理

法原之補

をやうし乃河を

法井ふたうしつ

仲はて地物ふ

人若みふさ

源宗平朝臣

常陸素類

まはる海心

ふしのふと

東志保農也

家半田久

まはる中もり

源重三

如雲をいさよ 浪乃

いと定流 されま

多たあそ かのぬ

急の流 子

藤原敏行朝臣

風芸 秋末ゆき

高き 幼ふと

ねとあ ちか

かれ ありん

わら 丹後と

空

中納言頼春朝臣

心也悔之亦多世と云

免年所杖多し

清皇系は清死志

天賞らけ死者

中納言道輔

人乃朽也 危きに

若ん心と あり様と

子成事ぬ 後と云

みちり 如る

小野小町

あみぞ

侍

うしろ

あつ

草子

人の

むし

あつ

あつ

権中納言教忠

ひし

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

中納言朝忠

冬草花

冬草花

冬草花

人なまの身

恨みし涙

在原重平朝臣

冬草花

冬草花

冬草花

冬草花

冬草花

冬草花

冬草花

冬草花

冬草花

冬草花

冬草花

山邊赤人

かゝるを以て

きつりあひたひ

まろふりあひ

か

みらくれいあひ

あひ

士生忠介

青河を志

人志志

清道たるを

別志

あつは記

う記海ハ

けを

け

藤原高光

かみゆり 宇らる

あまのこ 神を

みせの世 考ゆふ

のふり 月之礼

後凡太夫人

花見

や海に 新く

町者

お茶あえ

河紀登

たご

悠夏

麻乃

紀友則

秋風了 冬玉つる

神乃福地 かな

夏あけま

はな 東

ふ せ

中勢

あまが場乃ぬき

流あてもこと思かな

に記のとなつたを

半あてぬ

平生忠見

悉くして

ふまは

我名いさこ

は

我

たむ

をらに

うは

あり人

不

大中法林宣朝片

子と誓ひてかき礼は

松定者ぬりかき

より津

あり

代わ

むれ

魚

て

藤原仲文

丁卯

春

三月

有明法

物

乃心

心

誠

心

此一帖者永菴法印

墨蹟也圖書辨某

清加澄鑑

天保五年丁巳年春日

榮菴法印業延



當小路通三條上町
皇都書林 弘簡堂
須磨勘兵衛

大正九年七月

至

家造所藏